

スポンサーセミナー 1

共催:武田薬品工業株式会社

第 2 会場 (大阪府立国際会議場 10 階)

座長:大阪警察病院 薬剤部 部長 やまもと かつみ
山本 克己

高齢糖尿病患者でのサルコペニア・フレイル, 認知症

演者:大阪警察病院 糖尿病・内分泌内科 部長 やすだ てつゆき
安田 哲行

本邦では高齢化が急速に進んでいることから、高齢糖尿病患者の増加が著しい現状がある(糖尿病患者の高齢化率は推計で71.5%)。高齢糖尿病患者では通常の血管合併症に加え、サルコペニア・フレイル, 認知症などのADLの低下や健康寿命の短縮に関わる老年症候群が近年高い注目を集めている。糖尿病はサルコペニア・フレイル, 認知症の極めて強いリスク因子であるが、サルコペニア・フレイル, 認知症自体も糖尿病の増悪因子となり、両者には密接な関連がある。また、高齢糖尿病患者がサルコペニア・フレイル, 認知症を合併すると心理・社会的サポートの観点からも患者ケアが困難となることから、高齢糖尿病患者でのサルコペニア・フレイル, 認知症対策は極めて重要な問題である。そこで、本講演においては、糖尿病とサルコペニア・フレイル, 認知症との関連、その予防対策、すでにこれらの疾患を合併した際の治療法につき概説する。

【略歴】

平成 7 年 京都府立医科大学 卒業
平成 7 年 綾部協立病院 研修医
平成 8 年 京都民医連中央病院 研修医
平成 9 年 大阪厚生年金病院 内科 研修医
平成10年 大阪大学大学院 病態情報内科学 入学
平成14年 大阪大学大学院 病態情報内科学 修了
平成14年 大阪厚生年金病院 内科医長
平成18年 大阪大学医学部附属病院 内分泌・代謝内科 医員
平成22年 大阪大学大学院医学系研究科 内分泌・代謝内科学 助教
平成26年 大阪大学大学院医学系研究科 同 医学部講師
平成27年 大阪警察病院 内科(糖尿病・内分泌内科) 部長
平成28年 大阪大学医学部臨床教授 併任
現在に至る

学会専門医等

日本内科学会認定医, 総合内科専門医, 指導医, 近畿支部評議員
日本糖尿病学会専門医, 指導医, 近畿支部評議員
日本内分泌学会専門医, 指導医, 評議員
日本医師会認定産業医

所属学会

日本内科学会, 日本糖尿病学会, 日本内分泌学会, 日本甲状腺学会
日本骨粗鬆症学会, 日本病態栄養学会, 日本人間ドック学会

受賞

第74回日本内分泌学会 Young Investigator Awards

スポンサーセミナー 2

共催:大塚製薬株式会社

第 3 会場 (大阪府立国際会議場 10 階)

座長:東住吉森本病院 薬剤科 科長 のむら たけひさ
野村 剛久

脳血管障害とその付随疾患に対する包括的治療戦略

演者:国立循環器病研究センター 脳神経内科 部長 いはら まさふみ
猪原 匡史

アルツハイマー病の病理として、老人斑(Aβ)と神経原線維変化以外に脳アミロイド血管症があり、アルツハイマー病の90%以上に脳アミロイド血管症が観察される。これが、血管依存性のAβ排出不全につながる可能性があると同時に、アミロイド沈着血管は高度の形態変化をきたし、皮質微小梗塞を引き起こす。認知症においては、変性(アルツハイマー病)と虚血(血管性認知症)を明確に区別することは難しく、変性と虚血が相乗的に認知症を悪化させる。したがって、早期の血管性因子の補正や薬剤投与が、脳血管障害の予防のみならず、アルツハイマー病をも含む認知症の予防に広く有効である可能性があり、アルツハイマー病に対症療法しかない現状において、「血管」を標的とした治療が重要である。Cilostazolは血管の駆動力を高め、血管壁からのAβの排泄を促進する可能性が前臨床試験で報告されており、今後の臨床展開が期待されている。

【略歴】

平成 7 年 3 月 京都大学医学部卒業
平成 11 年 4 月 京都大学大学院医学研究科博士課程
平成 15 年 4 月 京都大学医学部附属病院
平成 17 年 4 月 日本学術振興会特別研究員
平成 18 年 9 月 英国ニューカッスル大学加齢医学研究所研究員
平成 20 年 2 月 京都大学医学研究科臨床神経学特定病院助教
平成 24 年 4 月 先端医療振興財団先端医療センター・再生医療研究部 副部長
平成 25 年 4 月 国立循環器病研究センター脳神経内科医長
平成 27 年 8 月 再生医療部 室長(併任)
平成 28 年 9 月 国立循環器病研究センター脳神経内科部長

学会活動

日本神経学会専門医・指導医
日本内科学会認定総合内科専門医・指導医
米国内科学会上級会員(FACP), 国際血管性認知症学会・執行委員
日本脳卒中学会専門医・評議員, 日本脳循環代謝学会・評議員
日本認知症学会専門医・指導医, 認知症疾患診療ガイドライン作成委員会
正会員:日本高血圧学会, 日本神経病理学会, 米国神経学会,
米国神経科学会, 国際脳循環代謝学会

受賞歴

平成 22 年 財団法人成人血管病研究振興財団・岡本研究奨励賞
平成 24 年 グレートブリテン笹川財団・Butterfield賞



スポンサーセミナー 3

第 4 会場 (大阪府立国際会議場 10 階)

共催: ファイザー株式会社

座長: 大阪府立成人病センター 薬局長 さかしょう よしひろ 坂上 嘉浩

転移性腎細胞癌患者に対する分子標的薬の有効性および安全性について

演者: 大阪医科大学 泌尿器科学教室 准教授 いなもと てるお 稲元 輝生

転移性腎細胞癌患者に対する分子標的薬 (VEGF 阻害剤・mTOR 阻害剤) の有効性および安全性について review する。

VEGF 阻害剤は、高血圧、手足症候群、甲状腺機能低下症、消化器症状、骨髄抑制、疲労、腎機能低下が代表的な有害事象である。

mTOR 阻害剤は、口内炎・代謝障害、間質性肺疾患、感染症が特徴的な有害事象である。

特に VEGF 阻害剤は、いくつかの有害事象と生存期間の延長に関連性を認めることから、on/off target に分けた管理により分子標的薬をより効果的に投与できる可能性がある。高血圧などの on-target の有害事象の場合には、出来るだけ有害事象をコントロールし、分子標的薬を適切な投与量で、長期の投与期間を確保することで、より長い生存期間が期待できる。

腎癌分子標的薬の普及と経験により、副作用の管理は、確立されてきており、そのマネージメントに関してメディカルスタッフの関わりも含め解説する。

【略歴】

平成10年3月 大阪医科大学 卒業
 平成10年5月 大阪医科大学附属病院臨床研修開始
 平成16年4月 東京大学医科学研究所 先端医療センター 客員研究員
 平成16年4月 北里大学 臨床薬理研究所 治験担当医師
 平成18年11月 MD Anderson Cancer Center 泌尿器科ポストドクトラルフェロー
 平成20年5月 大阪医科大学泌尿生殖・発達医学講座 泌尿器科学教室 助教
 平成24年4月 大阪医科大学泌尿生殖・発達医学講座 泌尿器科学教室 講師
 平成26年4月 大阪医科大学 泌尿器科学教室 診療准教授
 平成28年9月 大阪医科大学 泌尿器科学教室 准教授
 現在に至る

日
程特
別
記
念
講
演特
別
講
演プ
ロ
グ
ラ
ム共
催
セ
ミ
ナ
ー分
科
会口
頭
発
表ポ
ス
タ
ー
発
表